

HPV ワクチン(子宮頸がん予防ワクチン)のQ&A

Q1 子宮頸がんとはどのような病気ですか？

A1 子宮頸がんの原因は特定の型のヒトパピローマウイルス(HPV)であることが分かってきました。このヒトパピローマウイルス(HPV)は人の生殖器に存在し、主に性的接触によって感染します。

現代では、若い女性の3人に2人は、一生のうち一回はこのヒトパピローマウイルス(HPV)に感染すると言われており、きわめてありふれた感染です。感染を経験した女性のおよそ10人に1人がヒトパピローマウイルス(HPV)が消えない状態(持続感染)となり、その中のさらに100人に1人程度が子宮頸がん(あるいはがんになる前の状態である子宮頸部異形成)になると言われています。

Q2 HPV ワクチン(子宮頸がん予防ワクチン)を接種するとどうい効果があるのですか？

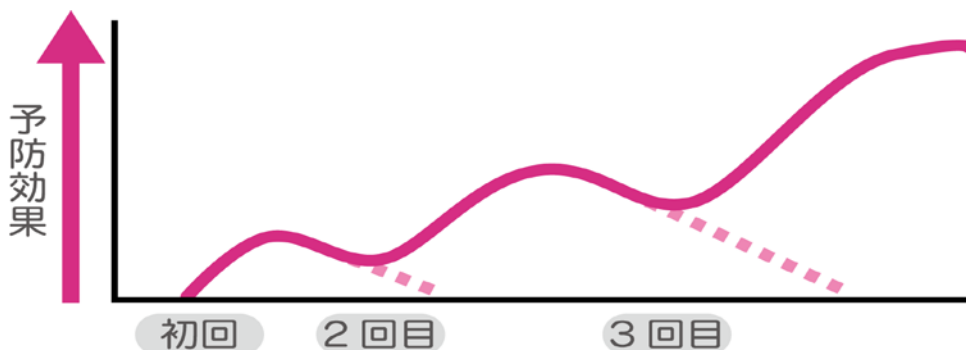
A2 ワクチンを接種することにより、子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス(HPV)の抗体をつくることで、感染を防御して、子宮頸がんを予防します。

ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染を防御できれば、子宮頸がんの予防になるのですが、きわめてありふれた感染のため、行動面での防御はあまり役立ちません。現在、ヒトパピローマウイルス(HPV)を防御する唯一の方法は、ヒトパピローマウイルス(HPV)に感染する前に HPV ワクチンを接種することです。

Q3 どのように接種をして費用はどのくらいかかるのですか？

A3 6ヶ月間に3回接種を受ける必要があります。初回の接種の後、1ヶ月目または2ヶ月目と6ヶ月目に接種します。腕の筋肉内に注射します。途中で中断すると予防効果は得られませんので、必ず3回接種してください。

対象年齢の区民の方は無料で接種できます。対象年齢外の方は自費での接種となりますが、医療機関によって費用が異なりますので直接お問い合わせください。



Q4 ワクチン接種の副反応はありますか？

A4 HPV ワクチン(子宮頸がん予防ワクチン)の主な副反応は以下の通りです。(各ワクチンの添付文書より)

サーバリックス

【主な副作用】

- 頻度10%以上 : 注射部分の痛み(99.0%)・赤み(88.2%)・腫れ(78.8%)、かゆみ、胃腸症状(嘔吐・下痢など)、筋肉の痛み、関節の痛み、頭痛、疲労
- 頻度1~10%未満 : 発疹、じんましん、注射部位のしこり、めまい、発熱、上気道感染
- 頻度0.1~1%未満 : 注射部位のピリピリ感/ムズムズ感
- 頻度不明 : 失神・血管迷走神経発作(息苦しい・息切れ・動悸・気を失うなど)

【重大な副作用】

重大な副作用としてまれに、ショック、アナフィラキシー様症状(血管浮腫・じんましん・呼吸困難など)があらわれることがあります。

ガーダシル

【主な副作用】

- 頻度10%以上 : 注射部位の痛み(85.2%)・赤み(32.0%)・腫れ(28.3%)
- 頻度1~10%未満 : 発熱・注射部位のかゆみ・出血・不快感、頭痛
- 頻度1%未満 : 注射部位のしこり、手足の痛み、筋肉が硬くなる、下痢、腰痛、白血球数増加
- 頻度不明 : 無力症、寒気、疲労、倦怠感、血腫、失神、浮動性めまい、関節痛、筋肉痛、おう吐、吐き気、リンパ節症、蜂巣炎

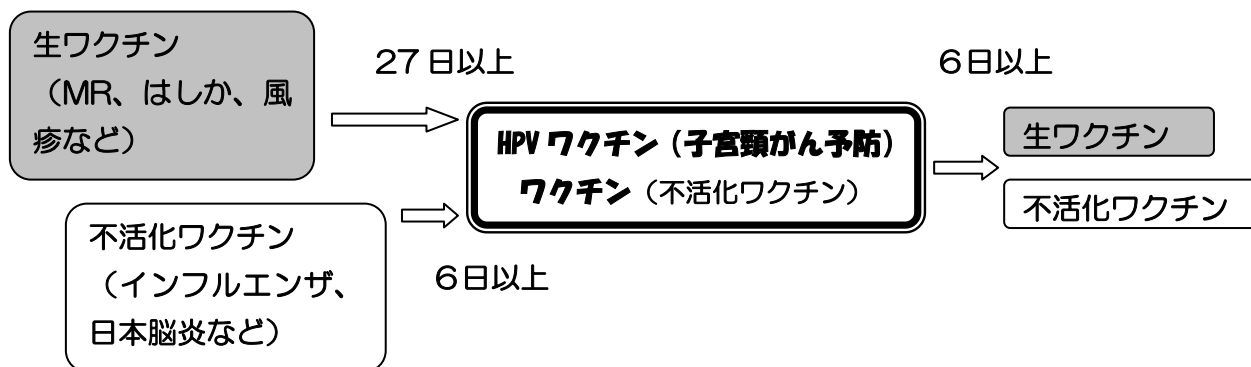
【重大な副作用】

重い副作用として、まれに、アナフィラキシー反応などの過敏症反応、ギラン・バレー症候群、血小板減少症紫斑病、急性散在性脳脊髄炎などが現れることがあります。

Q5 他の予防接種との間隔はどのくらいあればいいのですか？

A5 生ワクチンの接種を受けた方は通常 27 日以上、他の不活化ワクチンの接種を受けた方は通常 6 日以上間隔をあけて子宮頸がんワクチンを接種してください。

また、このワクチン接種後は6日以上あけて他のワクチンを接種してください。



Q6 ワクチンを接種するとどのくらい効果が続くのですか？

A6 開発時の臨床試験で接種した人の効果はいまだに継続しており、理論的には 20 年間は効果が続くだろうと言われていています。今のところ、追加接種の必要はないと考えられています。

Q7 ワクチン接種を受けたら子宮がん検診はもう受けなくてよいのですか？

A7 現在のワクチンで予防効果が期待されているのは、ヒトパピローマウイルス(HPV)の中でも60%程度を占める、16型と18型です。それ以外の型には効果の及ばないものもありますので、子宮がん検診を受けることは必要です。「子宮がん検診とHPVワクチンが、子宮頸がん予防の2つの柱です。」と言うのは、そのような理由からです。

Q8 ワクチンは指定医療機関でしか受けられないのですか？

A8 予診票を使用する場合は、23区内の指定医療機関であれば接種できます。接種を希望される方は、医療機関の所在する各区のHPをご覧ください。各区の保健所にお問い合わせください。自費でお受けになる場合は、産婦人科、内科、小児科などで接種が可能ですが、詳しくは直接医療機関にお問い合わせください。

Q9 子宮頸がん検診はどこで受けられますか？

A9 千代田区の区民であれば千代田区の指定医療機関で受診することができます。子宮頸がん検診は20歳以上の女性が2年に1回受診することが推奨されています。

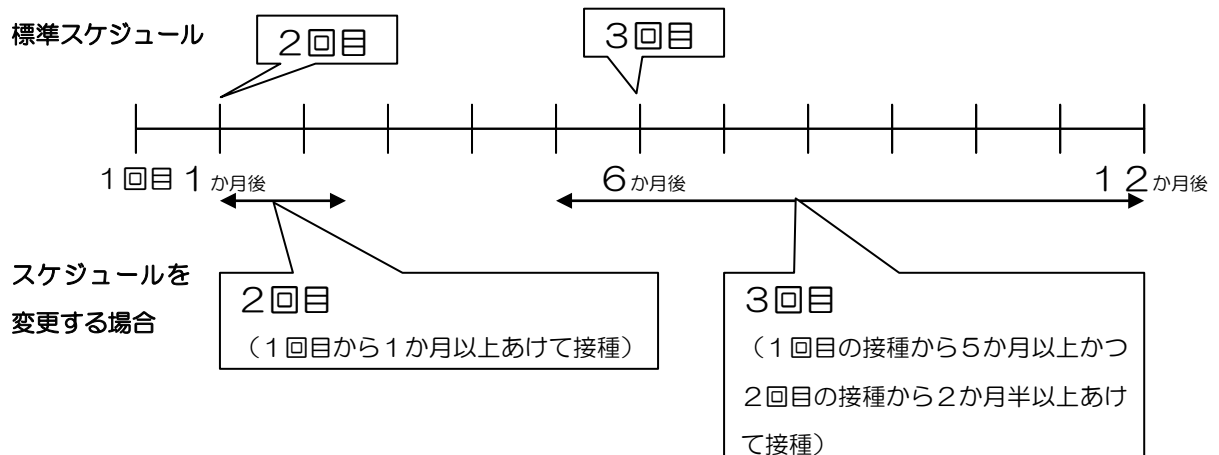
Q10 サーバリックスとガーダシルの違いについて

A10 サーバリックスは子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス(HPV)16型、18型の感染を予防します。ガーダシルはHPV16型、18型のほか、尖圭コンジローマの原因となる6型、11型の感染を予防します。子宮頸がんの予防効果はどちらも同様に期待できます。

Q11 サーバリックスとガーダシルでは接種方法は異なりますか？

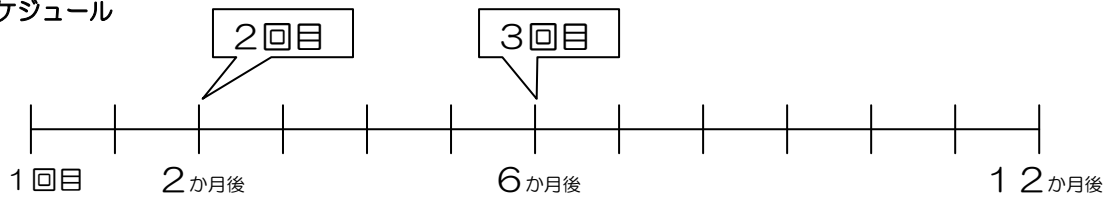
A11 どちらのワクチンも3回の接種が必要ですが、接種間隔が異なります。事情により標準スケジュールの通りに接種できない場合でも1年以内に3回接種しましょう。

サーバリックス



ガーダシル

標準スケジュール



スケジュールを
変更する場合



Q12 接種途中から別のワクチンに変更することは可能ですか？

A12 接種途中から他のワクチンに切り替えることに対する有効性・安全性のデータはありませんので、原則的には同じ種類のワクチンを3回接種してください。

Q13 すでにサーバリックスを3回接種している場合、追加でガーダシルを接種することは可能ですか？

A13 追加で別のワクチンを接種することに対する有効性・安全性のデータはありませんので、追加で別のワクチンを接種することは避けてください。